

1. 気象概況 (中野市長丘地区気象ロボット観測データによる)

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
12月	平均気温(°C)	3.4	2.8	-0.4	0.9	-1.3	-0.1	0.6	1.2	中旬平年比-1.3°C (低)
12月	降水量 (mm)	3.0	14.8	46.5	36.3	26.5	42.8	76.0	93.9	月間平年比 81% (やや少)
12月	日照量 (h)	66.9	44.8	24.7	42.8	59.0	42.9	150.6	130.5	中旬平年比 115% (多)

- 12月特記：最高13.1°C(12/3) 最低-12.8°C(12/22) 氷点下30 -5°C以下10 最大積雪量30cm(中野12/31)、76cm(田上12/31) 累計降雪量90cm(中野・12/15-31)、181cm(田上12/15-31)(12月中旬に1mの積雪は平成26年12月以来、6年ぶり) 強風17.3m/s(12/30・北北東)
- 12月氷点下(直近5年)：-10°C以下4回('16,'17)、1回('18)、0回('15,'19) 最低気温-13.2°C('16.12/31)、-12.0°C('17.12/29)、-10.3°C('18.12/31)
- 2020年間：平均気温12.2°C(平年比+0.8) 降水量1742.0mm(平年比146%) 日照量1955.7h(平年比97%) 最高38.1°C(8/11) 最低-17.3°C(2/7) 梅雨期間6/11-8/1(過去最長) 記録的暖冬(1~3月)平年比+2.6°C・長梅雨日数52(過去最長)・8月猛暑日4・11月の夏日(20°C以上)4・12月豪雪(6年ぶり)
- 上旬(平年比)：気温(やや高)+0.6°C、降水量(極少)20%、日照量(極多)149%
- 中旬(平年比)：気温(低)-1.3°C、降水量(極多)128%、日照量(極少)62%
- 下旬(平年比)：気温(低)-1.2°C、降水量(少)62%、日照量(極多)138%
- 月間(平年比)：気温(やや低)-0.6°C、降水量(やや少)81%、日照量(多)115%



2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

【生産特記2020】
① 生産基盤(推定)：ぶどう350ha・りんご150ha・もも85ha・和梨12ha・西洋梨6ha・桜桃9ha・柿6ha・プラム40ha
② 生育経過：4月生育遅滞 5月少雨・干ばつ 6-7月長梅雨 8月酷暑 9月上旬猛暑 10月日照不足・低温
③ プラム：生産量昨対43%。結実不良・日焼け多発等で大きな減収で終了。ハウス⇒初出荷5/末頃～
④ サクランボ2021：7.2°C以下低温積算 1300.5h(12/31現在・昨年比△87.5h) 被覆予定22棟(昨年比△5)
⑤ もも：生産量昨対81.4% 8月末までの晩生種の収穫進捗は平年比7-10日早く経過したが、極晩生は過去にない成熟遅滞で経過。面積減・結実不良・収穫前ロス多発・せん孔病被害発生等の複合的な要因で減収。ハウスもも⇒昨年並の被覆 初出荷5/初頃～
⑥ 和梨：生産量昨対89%(面積減・小玉率高) 南水平均糖度14%台(陽だまり率40%超え・過去最高)。
⑦ 西洋梨：生産量昨対84%(面積減・老木化・小玉率高)。収穫・追熟は平年並み～やや早い。輪紋病平年並み。
⑧ りんご：生産量昨対 つがる100%、秋映105%、スイート105%、ゴールド110%。大玉率高く、中生種の生産量は昨年を上回る。平均糖度 つがる11%、リップ13.5%、秋映13.2%、スイート14.5%、ゴールド14.2% ホッペ13.7%、名月14.9%
⑨ りんご：ふじ9月末～つる割れ多発(発生率は過去5年で最多)。長梅雨→干ばつ→9月降雨が影響したとみられる。
⑩ りんご：収穫開始：名月10/26、百年11/5～、サンふじ11/10～、ムーンルージュ11/5～、なかののきらめき11/10～
⑪ りんご：ふじ10月の日照不足・低温により成熟遅れ。11/10前後蜜入り。平均収穫開始11/10頃。豊作。生産量昨対110%。
⑫ 柿：収穫開始 市田柿10/20 琥珀の華11/2 平核無11/10。糖度は高め。生産量昨対105%見込み。(琥珀150%) 初出荷：市田(おひな)柿11/30～ ころ柿12/18～ 琥珀の華12/25～ 仕上がり遅れ・出荷進度遅い状況
⑬ キウイF：収穫開始 黄色系10/7～ ハイワード10/17～ 一部園地生育不良や小玉傾向もあり生産量昨対85%
⑭ ハウス2021：サクランボ22棟(昨対-5) もも1棟(昨年同) プラム1棟(昨年同)
⑮ 生産基盤2021(推定)：ぶどう350ha・りんご150ha・もも83ha・和梨12ha・西洋梨6ha・桜桃7ha・柿6ha・プラム38ha

【2020病虫害対策】
① 腐らん病：5月以降枝腐らん病発生非常に多い。梅雨期間感染拡大。秋季の発病が全域で目立つ。
② せん孔細菌病：夏型枝病斑が多く、台風による秋季感染心配される。収穫後のボルドー散布を徹底する。
③ 晩腐病：梅雨期間で感染拡大。主に巨峰で発生。発生は昨年より多かった。
④ 黒とう病：梅雨からシャインマスカットの粒、副梢での発生日立った。昨年より発生は少ない。
⑤ カスミカメムシ：全域で被害あり(4-7月)。シャインマスカットの梢先端部の被害目立った。
⑥ ハダニ類：梅雨明け後の発生は平年並。9月上中旬の発生日立った。被害が大きい園では早期落葉・葉の機能低下目立った。
⑦ キンモンホソガ(りんご)：過去5年で最も多い発生量。第1次世代(6月下旬)から増加、第3世代(8月)で被害拡大。
⑧ カメムシ類：全体で被害多発。過去5年では最も多い発生量。果実被害による正品化率低下あり。
⑨ 炭そ病(りんご)：8月中旬から発生。日焼け部分に併発。つがる・秋映で発生多かった。正品化率低下の一因となった。
⑩ 輪紋病(りんご)：8月下旬からふじに早期発生。収穫前～貯蔵中の発生も多かった。正品化率低下の一因となった。
⑪ すず病(りんご)：梅雨感染。お盆過ぎから被害果散見。9月下旬感染の収穫前発生も目立った。大きな減収要因にはならなかった。
⑫ 円星落葉病(柿)：発生は昨年より少ない。一部で早期落葉あり。
⑬ 黒斑病(キウイF)：平年並みの発生。